



はなみずき

成生小学校だより
令和5年11月24日
第8号
校長 飯田 真理子



学びを広げよう

学びを深めよう

【校外学習は、自分のくらしの範囲を広げて学ぶチャンス】

- **1年生**の校外学習では、市給食センターや西沼田遺跡公園、総合運動公園に行ってきました。給食ができるまでの様子や特大の道具を見せていただいたり、西沼田遺跡公園や総合運動公園ではどんぐりや色づいた葉っぱをたくさん集めたり、楽しい遊具でたっぷり遊んだり。普段の生活ではできない貴重な経験をしてきました。



- **2年生**の校外学習では、自分で切符を買って電車に乗る体験をしました。生活の中で電車を利用する機会はあまり多くはない子供たち。切符を買ったり、改札口を通ったり、電車に乗ったりの一連を活動中、とても慎重な様子だったようです。

生活科の「町たんけん」でも、たくさんのお店や施設等にお邪魔して多くの発見をしてきました。先日は、お世話になった方々とおうちの方をお招きして学習発表会を行いました。地域の方々の思いや驚きをより効果的だと思う方法でまとめ発表しました。



- **3年生**は、社会科の学習で事前に調べたことから生まれた疑問を解決するために見学に行きました。実際に見て、直接質問させていただいたことで、疑問が解決し、働く人々の工夫や努力、その仕事に対する姿勢や考え方を深く学ぶことができました。



- **4年生**は、総合的な学習の時間の学習として「天童フィールドワーク」に挑戦しました。自分の住む町から、駅前や温泉街周辺地へエリアを広げて学びました。ふり返りでは、「安全に活動する力」「チーム力」「地図を見る力」「学びに向かう力」が付いたとのこと。自分たちの伸びを実感できたことこそ、成長の証です。



■**6年生**は修学旅行。この修学旅行のねらいの一つは、「1～6年生までに学んだことを活用して活動し、自分たちの学びが社会で生かすことができるのかを確かめるとともに、社会で使える力を身に付ける」でした。ここまでの学びの集大成です。

□1日目は、東日本大震災について学ぶこと。

10月にオープンしたばかりの「深沼うみのひろば」で、体験的に学ぶ活動をしました。荒浜・深沼海岸エリアは居住できない区域に指定されており、震災を伝えたり、土地の利活用に取り組んだりしています。



□震災遺構の荒浜小では、被害の大きさや実際に救助されるまでの間、カーテン等を使って寒さをしのいでいた当時の状況がそのままに展示されていました。ガイドさんの話に真剣に耳を傾け、被害状況を記録に残そうと黙々と撮影していました。



□日本三景の松島ではその美しさを堪能しました。遊覧船でも震災を経験したガイドさんの話をお聞きし、命の儚さと自然の驚異を考えることとなりました。今年の6年生は、東日本大震災後に生まれた子供たちです。ガイドの方々から託されたメッセージは、経験をしていなくとも、こうやって関心を寄せ、聞いたことを語り継いでいくことが大切であると教えられました。

□2日目は、松島や仙台方面に分かれて班別活動。自分たちで考えたルートで見学先まで移動。普段の生活で電車に乗ることなどない子供たち。切符の買い方や改札の通り方にもひと苦勞。しかも電車のトラブルで遅延が発生。構内アナウンスで聞き取った情報を基に、活動日程の修正をしている班もありました。みんなで確認しながら慎重に行動していました。



□全てがうまくいったわけではありません。自分の課題が明確になった子、学級全体の課題が浮き彫りになったこと等、今後のくらしの中でさらに意識して改善していくことが必要だと感じた子供たちです。学びを広げ、深め、課題を確認することができた価値ある修学旅行となりました。



■そして**5年生**。すでに山形フィールドワークと宿泊体験学習を終えている5年生にとっては、修学旅行で6年生がいなかった2日間は、これまで付けた力を実際の生活の中で試す機会となりました。通学班長や縦割り班のリーダーとして、下学年の人たちを気かけ、優しく声かけ、責任あるくらしぶりだったとのことです。この様子を間近で見ていた4年生は、5年生の姿や言動に感心し、「私も5年生みたいに、テキパキと指示を出したり、優しく声をかけたりしたい」と、ふり返りに書いていました。

小学校で学ぶのは6年間です。成生小で6年間学ぶことで、本校の教育目標である「自分を信じ ともに よりよく生きる子供」の育ちを支えたいと考えています。

「自分の可能性を信じることのできる子供」になるための基盤は、自己肯定感です。子供の成長を支える私たち大人が、「大丈夫」「あなたにはあなたのままでいい」「あなたにはこんなよさがある」と、あたたかく伝え続けることが大切です。

「ともに」は、子供を取り巻く人・自然・社会等と関わりながら、互いに影響し合い、支え合って生きていることを、経験を積みながら繰り返し学ぶ機会が必要です。

そして「よりよく生きる」。自分の今を確かめながら成長しようという心意気をもつこと。よりよいくらしを創っていくことのできる人間になってほしいと願っています。